

様式 F-7-1

## 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（平成25年度）

1. 機関番号 

4	2	6	7	6
---	---	---	---	---

      2. 研究機関名 大妻女子大学短期大学部
3. 研究種目名 基盤研究(C)      4. 補助事業期間 平成24年度～平成26年度
5. 課題番号 

2	4	5	2	0	5	9	8
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 ピア・レスポンスの何が文章の質的向上と評価結果に影響するのか

## 7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
2 0 4 1 9 4 8 5	ナカオ ケイコ	国文科	准教授
	中尾 桂子		

## 8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
8 0 2 8 8 3 3 1	タナカ ノブユキ	富山大学・国際交流センター	准教授
	田中 信之		
6 0 3 3 0 4 8 7	フクオカ スミコ	流通科学大学・商学部	教授
	福岡 寿美子		

## 9. 研究実績の概要

本研究は、<A>「活動形態」と<B>「学習者タイプ」の違いにおける、ピア活動実施後の学生の意識、評価点向上の条件、これらの関係を調べることが目的である。ここで言う<A>「活動形態」とは、対面方式、非対面方式でのピア・レスポンスのことで、<B>「学習者タイプ」とは留学生、日本人学生、混在（留学生と日本人学生）を指す。

25年度前期は、留日2タイプ<B>の対面式ピア・レスポンス、留日2タイプ<B>の非対面ピア・レスポンスを実施し、各々を担当する研究分担者が分析して、結果を研究会で発表し、広く意見を求めた。後期も、前期同様のコースデザインで、留日2タイプのクラスで、対面、非対面の授業実践を行い、その実践について、条件、利点、問題点を考察した。

25年度末には、原田三千代氏（桜美林大学非常勤講師）を招いて、担当者による実践報告会を開催し、実践結果とその分析に関して意見を交換した。

この他に、研究代表者は、文の結束性判断の観点をういた場合の、コレスポンデンス分析、クラスター分析の有効性、ならびに、パターン抽出の方法を検討し、夏期と学期末に開催された言語統計処理法を考える研究会で発表して有識者の意見を求めた。